



生きがい創造学院で大勢の生徒に囲まれて撮影

個性と手作りのよさが魅力 編み物は味わい深い手芸の一つ

豊岡地域には、編み物教室の講師を通じて交流を深めながら地域に貢献している女性がいます。今回は、その女性を紹介します。

松田 美津枝 さん(71歳) 正法寺

「糸がとっても好きなんですよ！宝石のネックレスよりも、たった1本の糸からできる手作りのアクセサリーが好きです。今となっては編み物なしの生活は考えられません」と話すのは、豊岡地域で編み物教室の講師をしている松田美津枝さん。現在、旧豊岡南高校で行われている生きがい創造学院の編み物教室で講師を務めるほか、豊岡地区公民館の事業として「まるやま学園」や「あみっ子クラブ」などの講師も務めています。

松田さんが編み物と出合ったのは30歳代。それ以前に習い事で学んだことを忘れるほど、1本の糸から広がる魅力に引き込まれていきました。

大好きな編み物を豊岡でも広めたい

夫の転勤先の山口県防府市で市民教養講座の講師を務め、大勢の生徒に囲まれていました。やがて、夫の故郷であるここ豊岡に生活の拠点を移すことになり、地元にも多くの生徒を残し、惜しまれながら引っ越してきました。

その後、豊岡でも編み物教室をやりたい」という思いを持ちながら過ごしていると、そこに、地域の方から「編み物教室の講師をやってほしい」という依頼がありました。松田さんは、不慣れな土地でも以前のようにやっていけるかと不安でしたが、夫の支えもあり、この依頼を引き受ける決意をしました。

用途に応じた手法の数々

編み物には、大きく分けて



さまざまな編み物教室の講師を務めている松田さん。長年培った技術と知識で的確なアドバイスがモットー。趣味はハイキングと登山

4つの手法があります。マフラーや靴下、手袋、セーター等の衣類に一般的に用いられる「棒針編み」、独特の編み目模様でデザインの自由度が高く、帽子などの小物類、あみぐるみなどに用いられる「かぎ針編み」、織物のような独特の編み目特徴の「アフガン編み」、1本または何本かの細い糸を使つての「機械編み」があります。

これらさまざまな手法は用途に応じて使い分けられ、作品に無数の表情をもたせます。

1本の糸から広がる無限の世界

松田さんの作品は、服や帽子などの衣類のほか、アクセサリーや小物などです。

松田さんの自宅には自然と生徒が集まり、ときには編み物について相談したり交流の場にもなるなど、笑顔と楽しそうな話し声が絶えません。

彼女たちは、1本の糸からさまざまな物を作っていく。そんな魔法のような編み物の魅力に引き込まれていきました。

「作品ができた瞬間の満足感、最高の気分です」「次は何を作るのかな。積み上げられた毛糸の束を見ながらそんなことを考える時間も楽しい

膨らみます。

みんなの笑顔をみていたい

編み物を通じて生徒たちと交流を深めている松田さんは「編み物教室は私一人の力ではなく、みんなの支えがあるからこそ続けられています。70歳を過ぎた今、いつまでできるかわかりませんが、若い方に編み物の良さを知ってもらい、皆さんの役に立てることを幸せに思います。みんなが楽しく編み物ができ、笑顔になれるよう続けていきたいですね」と話していました。



編み物のコツをアドバイスする松田さん(中央)

保育園に広報マンがやってきた！ 5

八代保育園

(日高)

園児48人



自然豊かな農山村地域に位置する八代保育園。5月29日、同園恒例の「田植え交流会」が行われるようなので、その様子をのぞいてみました。

おじいちゃんおばあちゃん！一緒に作業！

4、5歳の園児がおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に田植えを体験します。

もち米の苗の植え方を教わり、園近くの田んぼに移動です。



オタマジャクシがいるぞ！

5分ほど歩くと田んぼに着。あぜ道を歩いていると和ちゃん(5歳)が田んぼの中にオタマジャクシを発見しました。

そのほか、カエルやゲンゴロウ、アメンボがたくさんいて、園児たちは大喜び。

泥がヌルヌル、水がひんやり



スリッパを脱いで田んぼの中に入ると「ヌルヌルする」「冷たい」と元気な歓声があがりました。泥に足を取られながらもみんなで一列に並んで苗植えに挑戦です。

田植えって難しいなあ！

4〜5本の束を土に挿して

。分かっていくけど、なかなかうまくいきません。やっぱり、おじいちゃん、おばあちゃんには上手だなあ。つかさちゃん(5歳)とけいちゃん(5歳)はおじいちゃん、おばあちゃんに教えてもらいながら次々に植えていくことができました。



最後はふれあい遊びと和太鼓演奏！

田植えが終わって保育園に戻ると、今度はみんなでふれあい遊びです。手を取り合っただけで音楽に合わせて手遊びを楽しみました。

次は、ぶどう組の園児たちによる和太鼓演奏の披露です。曲は「アジヤパン」。拍手喝采の後、みんなで楽しくごはんを食べました。



この日植えた苗は、秋に収穫し、冬にはもちつき交流会をする予定です。

顔輪笑の

力・技術・持久力そしてチームワークで綱を引く
「T・C但馬(出石)」
ティシュー

出石地域の綱引きクラブ「T・C但馬」は平成3年に発足し、現在、17人が所属しています。毎週土曜日の午後8時から、出石B&G海洋センターの体育館で練習で汗を流しています。

代表の由良一男さん(出石町伊豆)は「綱引きの良い所は動きが少ないため性別や年齢に関係なく誰もが楽しめるスポーツです」と話します。

運動会などで定番競技の一つでもある綱引きは、2つのチームが綱を引き合うスポーツです。「綱を引くだけ」という単純明快なスポーツだからこそ世界的にも親しまれ、1920年まではオリンピックの正式競技種目でもあり、突き詰めればさまざまな技術や戦略が駆使されています。

主なルールは、1チーム



ム8人で綱を引き、合計年齢・体重などでそれぞれ出場種目が異なり、4メートル引き込むと勝ちが決定します。



「地味なスポーツだと思われがちですが、やってみると奥が深く面白いです。自分の力を思いっきり出せるので気分転換にもなります」と休憩時間には笑いの絶えない明るいクラブ。仲の良さ息の合ったチームプレイが自慢です。

同会は、毎年1月に開催される兵庫県綱引き選手権大会の男女混合種目に定期的に出場しており、過去には準優勝の戦績もあります。

ただいまメンバー募集中！という同会は、今後メンバーを増やして男子種目(8人以上)、女子種目(8人以上)にそれぞれ出場しようと意気込んでいました。